

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **07221843 A**(43) Date of publication of application: **18.08.95**

(51) Int. Cl.

H04M 3/42**H04M 11/00****H04N 7/15****H04N 7/18**(21) Application number: **06013435**(71) Applicant: **KYOCERA CORP**(22) Date of filing: **07.02.94**(72) Inventor: **YASUJIMA HIROMI**(54) **VIDEO CONFERENCE SYSTEM**

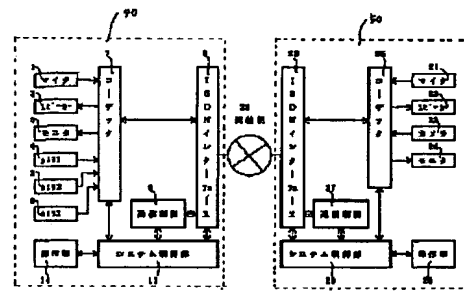
remote supervisory equipment at night for example.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

PURPOSE: To allow one set of video conference equipment to realize a conference function and a supervisory function by selecting optionally and forcibly a video conference mode or a supervisory mode with a command from a supervisory center.

CONSTITUTION: An identification code outputted from a video conference terminal equipment of a supervisory center 50 by using a subaddress on an ISDN line is forcibly sent to a video conference terminal equipment of a supervisory site 40. The identification code includes at least the usual video conference mode and the supervisory mode supervising the supervision site 40 by the supervisory center 50. When the video conference terminal equipment of the supervisory site 40 receives the identification code from the video conference terminal equipment of the supervisory center 50, the video conference terminal equipment of the supervisory site 40 sets optionally the mode from the video conference mode into the supervisory mode or vice versa according to the identification code. Thus, one set of the video conference terminal equipment is used for a video conference terminal equipment at daytime and for a



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-221843

(43) 公開日 平成7年(1995)8月18日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 3/42	C			
11/00	3 0 1	8324-5K		
H 0 4 N 7/15				
7/18	D			

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-13435

(22) 出願日 平成6年(1994)2月7日

(71) 出願人 000006633

京セラ株式会社

京都府京都市山科区東野北井ノ上町5番地の22

(72) 発明者 安島 弘美

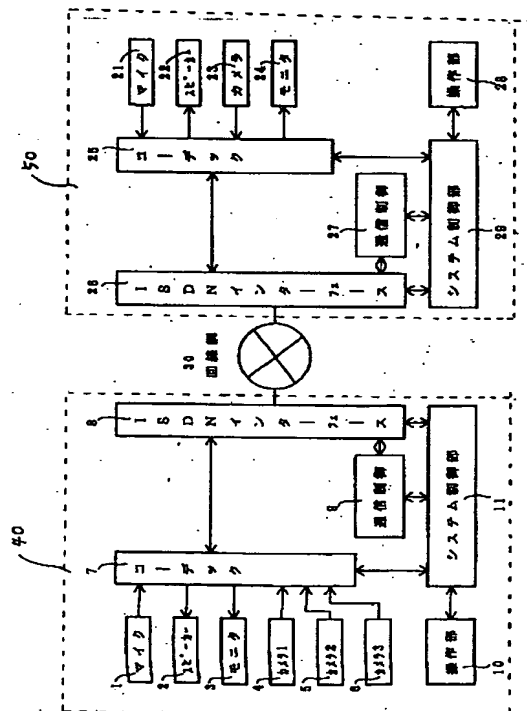
東京都世田谷区玉川台2丁目14番9号 京セラ株式会社東京用賀事業所内

(54) 【発明の名称】 テレビ会議システム

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 テレビ会議装置に改良を加え監視機能を付加し、一台でテレビ会議機能と監視機能を有する。

【構成】 通常のテレビ会議システムにおいて、監視センタ50から監視サイト40にサブアドレスを用いて会議モードと監視モードを選択する機能と、監視サイトはサブアドレスに特定の値を受信したときに呼出音を鳴らさずに強制的に接続される着信機能と、監視モード時の監視サイトはオーディオ、ビデオおよびデータが出力しないように制御される。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 I S D N 回線を使用して伝送チャネルをオーディオ、ビデオ、データの各メディアに適した速度に分割して多重化通信が行われるテレビ会議システムにおいて、第 1 の端末と接続要求を行いその端末のモードを設定するための識別コードを I S D N 回線上のサブアドレスを用いて出力する第 2 の端末と、その第 2 の端末からの指令に応じてその第 1 の端末がテレビ会議モードから監視モードまたは監視モードからテレビ会議モードに切り換えられることを特徴とするテレビ会議システム。 10

【請求項 2】 前記監視モードは第 2 の端末から第 1 の端末に出力される制御信号に応じて第 1 の端末側にあるカメラを選択制御するカメラ制御機能および第 1 の端末には音声あるいは画像データが出力停止される機能を有することを特徴とする請求項 1 記載のテレビ会議システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、監視センタに設置したテレビ会議端末と監視サイトに設置したテレビ会議との間で通信できるテレビ会議システムにおいて、例えば、監視センタにいる経営者と監視サイトにいる従業員とが通常は打ち合わせ用にテレビ会議モードとして使用する。また、従業員が不在のときには監視機能モードとして使用できるテレビ会議システムに関する。 20

【0002】

【従来の技術】 従来の遠隔監視装置においては、特開平 4 - 6 5 9 5 9 に記載されているような I S D N 回線を用いた遠隔監視装置が開示されているが、この装置は専用回線でなく、I S D N 回線を用いることによって実時間でカメラ撮影位置の変更ができ、しかも動画像、音声、カメラ撮影位置の変更要求は同一回線上で同時に転送できるので、従来のように別途回線を設ける必要がないことを目的としている。このように従来の遠隔監視装置は遠く離れた位置に設置された場所を監視するためのものであり、遠隔地にある相手と音声、画像および文字データを双方向に通信できるテレビ会議の機能を有していなかった。 30

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、近年、音声および画像圧縮技術の目覚ましい進歩に伴い、遠隔地にいる相手と双方向に通信できるテレビ会議が利用されてきた。しかし、このようなテレビ会議は基本的には従来の遠隔監視装置機能を有していないために、両方の機能を利用するときには遠隔監視装置とテレビ会議装置をわざわざ購入する必要があった。さらに、テレビ会議装置は主に昼間に使用される場合が多いのに対し、遠隔監視装置はほとんど夜間に使用されることが多い。そこで、一台の機械でテレビ会議機能と監視機能を兼用する装置があれば経済的および設備面において有利である。 50

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明はこれらの課題を解決するためのものであり、I S D N 回線を使用して伝送チャネルをオーディオ、ビデオ、データの各メディアに適した速度に分割して多重化通信が行われるテレビ会議システムにおいて、第 1 の端末と接続要求を行いその端末のモードを設定するための識別コードを I S D N 回線上のサブアドレスを用いて出力する第 2 の端末と、その第 2 の端末からの指令に応じてその第 1 の端末が少なくともテレビ会議モードから監視モードまたは監視モードからテレビ会議モードに切り換えられるテレビ会議システムを提供する。

【0005】

【作用】 監視サイトに設置されるテレビ会議端末とそのテレビ会議端末と遠隔地にあって監視センタに設置されるテレビ会議端末とが I S D N 回線を使用して伝送チャネルをオーディオ、ビデオ、データの各メディアに適した速度に分割して多重化通信が行われるテレビ会議システムにおいて、監視センタのテレビ会議端末が I S D N 回線上のサブアドレスを用いて出力する識別コードを監視サイトのテレビ会議端末宛に強制的に送信することができる。その識別コードは、少なくとも通常のテレビ会議モードと監視センタが監視サイトを監視するための監視モードとを考えている。監視サイトのテレビ会議端末が監視センタのテレビ会議からの識別コードを受信すると監視サイトのテレビ会議端末はその識別コードにしたがってテレビ会議モードから監視モードまたは監視モードからテレビ会議モードに任意に切り換えられる。したがって、例えば、一台の装置で、人々が活動する昼間にはテレビ会議装置として使用できるし、夜間には監視サイト側の状況を監視するために遠隔監視装置としても使用することができる。また、監視センタにいる経営者が監視サイトにいる従業員をいつでも監視することができる。 30

【0006】 また、それぞれのモードについて説明を行う。

【0007】 テレビ会議モードは、監視センタのテレビ会議端末および監視サイトのテレビ会議端末であっても、オーディオ、ビデオ、データが双方向に出力することができるために、必要な情報をリアルタイムに送信することができる。

【0008】 一方、監視モードは監視センタからの指令に応じて監視サイトにある複数のカメラを所望の位置に制御することができる。監視センタからそのカメラで撮影された情報を監視する。また、監視センタは監視サイトからのオーディオ、ビデオ、データを出力することができる。しかし、監視サイトのテレビ会議端末は当然のことであるが、オーディオ、ビデオ、データを出力しないように監視センタから監視サイトを制御することができる。 50

【 0 0 0 9 】

【実施例】以下、図面を用いて本発明の実施例について説明を行う。図 1 は本発明のテレビ会議システムのブロック図であり、図 2 は本発明のテレビ会議システムの監視センタ側の動作を説明するためのフローチャートであり、図 3 は本発明のテレビ会議システムの監視サイト側の動作を説明するためのフローチャートである。図 1 において、本発明のテレビ会議システムで使用される監視サイト側において、1 はマイク、2 はスピーカー、3 は相手映像または自分映像を映し出すモニター、4、5、6、はカメラであり監視サイトの状況を撮影する監視用のものである。7 は映像および音声を送受信するためにそれらのデータを符号化または復号化するためのコーデック、8 は I S D N インターフェースであり、映像、音声、データと通信制御の為に信号が多重化されて伝送される。9 は通信制御部であり I S D N 回線網及び相手端末（監視センタ）との通信を司るものである。これらはシステム制御部 1 1 で制御され、ユーザーは操作部 1 0 を介して操作する事が出来る。

【 0 0 1 0 】監視センタ 5 0 側も同じ構成であるためにその構成を省略するが、監視用のカメラは必要なくテレビ会議のために使用されるカメラ 2 3 を 1 台有する。

【 0 0 1 1 】このように構成されたテレビ会議システムにおいて、監視モードで使用する場合の動作について図 2 と図 3 を用いて説明する。図 2 において、監視センタ側の動作を説明する。

【 0 0 1 2 】図示しない操作者によって操作部 1 9 から発信時に会議監視モードを選択（1 0 1）するために監視サイト 4 0 のアドレス（電話番号）を入力（1 0 3）する。入力された電話番号はサブアドレスの 5 桁目に強制着信用特定サブアドレスとして ' A ' を付加して発信（1 0 4）される。サブアドレス 4 桁目迄は通常のバス配線用として使用される。また、監視サイト側に音声および映像が送出されないようにするために指定位置のフラグをそれぞれオフにしておく。

【 0 0 1 3 】図 3 において、監視サイト側の動作を説明する。監視サイト側はサブアドレスの 5 桁目の特定サブアドレスを判別し、そのサブアドレスに ' A ' が指定されているときには監視モードとして、強制的に着信し接続（2 0 2）処理が行われる。' A ' 以外のコードが指定されているときには会議モードとしての処理が行われる。監視モードのときには、音声および画像データが出力されないために監視サイト側の状況を誰にも気付かれないようにして監視を行うことができる。したがって、

監視サイト側にいる人は通常のテレビ会議装置が設置されていると思うだけである。

【 0 0 1 4 】さらに、監視サイト側には複数のカメラが設置されているためにどのカメラの映像を受信するかを、監視センタ側で選択する事が可能である。この場合の切り換えコマンドは I S D N 回線のデータチャネルを用いて行われる。

【 0 0 1 5 】終了は監視センタから切断する事（1 0 7）によって行われる。

【 0 0 1 6 】また詳しくは説明しないが、会議モードで使用する場合は会議モードを選択して発呼する。この場合はサブアドレスに特別の値を設定する事はしない。また音声、映像も双方向に通信出来るようにして通常のテレビ会議が可能となる。

【 0 0 1 7 】なお、上述のサブアドレス A はユーザー毎にそのコードが変えられるために異なるユーザー間においてはデータ転送は行われない。

【 0 0 1 8 】

【発明の効果】以上記載のごとく本発明によれば、監視センタとその監視センタから遠隔地にある監視サイトとが I S D N 網を利用して接続されるときに、監視センタ側からの指令によって、強制的にテレビ会議モードと監視モードまたは監視モードからテレビ会議モードに任意に切り換えられるために一台のテレビ会議装置で両方の機能を実現している。したがって、遠隔監視装置とテレビ会議装置をわざわざ購入する必要がないために、経済的および設備面において効果を有する。また、一方、監視サイト側には監視装置であることを知らせないでテレビ会議装置であることだけを教えておけば、監視されていることを知らない相手を監視することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明のテレビ会議システムのブロック図である。

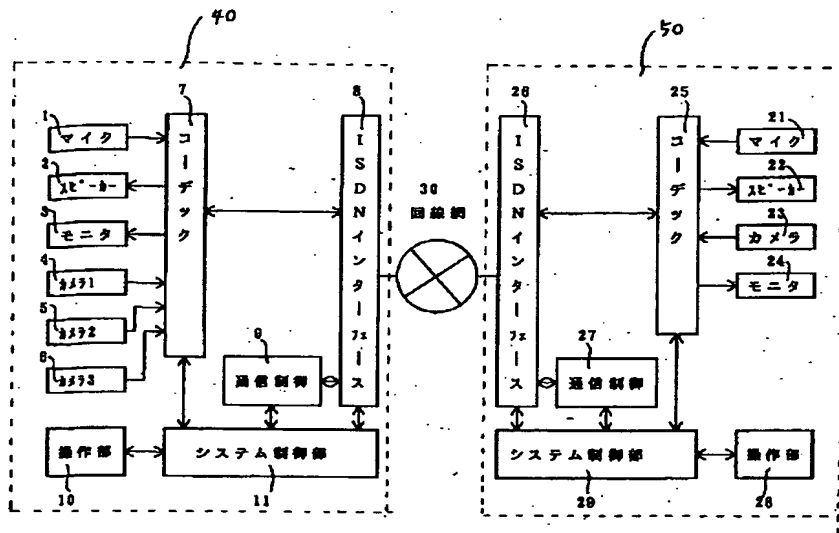
【図 2】本発明のテレビ会議システムの監視センタ側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3】本発明のテレビ会議システムの監視サイト側の動作を説明するためのフローチャートである。

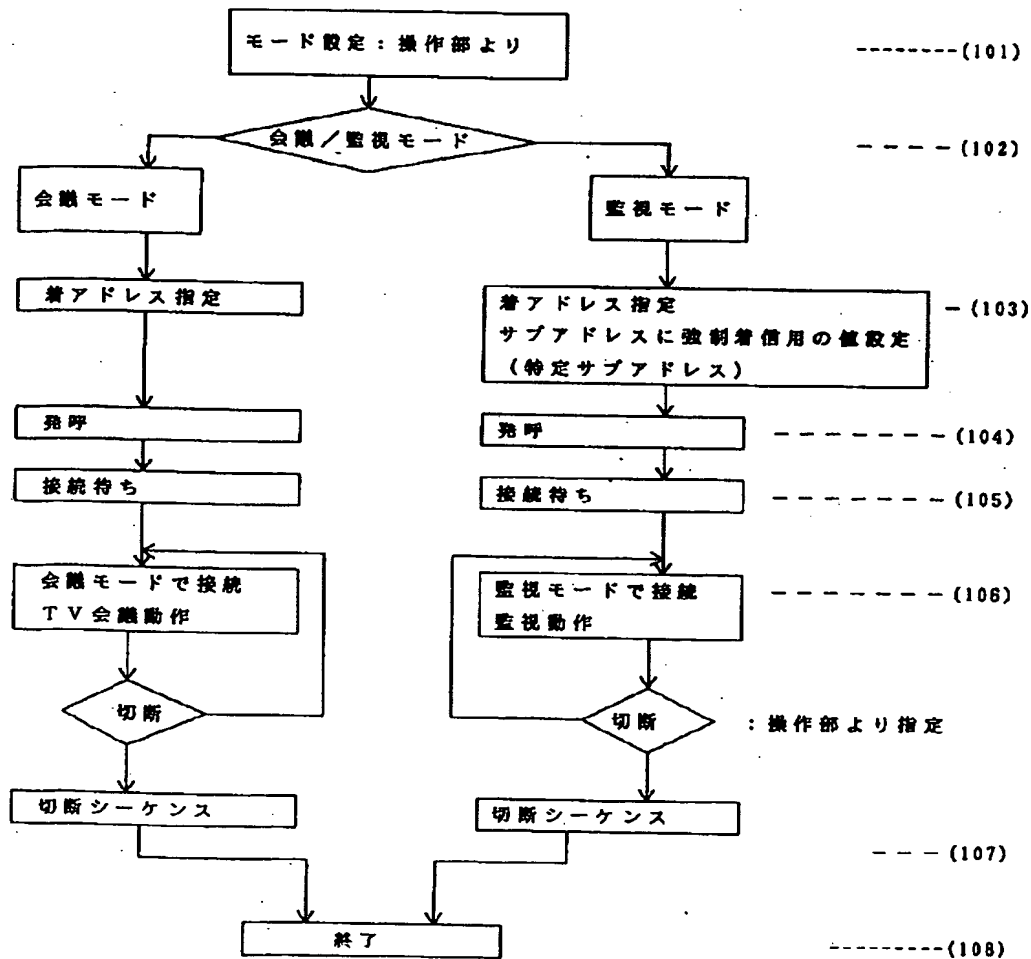
【符号の説明】

- 1 マイク
- 2 スピーカー
- 3 モニター
- 4 カメラ
- 7 コーデック
- 8 I S D N インターフェース

【図1】



【図2】



【図3】

